

令和4年度 堺りべらる高等学校 学校評価

1. 目指す学校像

建学の精神である「愛と真実の教育」「情操豊かな女子教育」を基本とし、新しい時代にはばたく力、生きる力を育む女子教育の理想をめざす

1. 明朗な女性の育成
2. 知性豊かな女性の育成
3. 実行力のある女性の育成

2. 中期的目標

1. 特色授業や行事を通して専門性を高める

◆本校独自の特色授業や行事を充実させる。

ア「ダンス」「楽器」「演技」「声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に、「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現を学習し、自己表現力、コミュニケーション力を育み、表現力豊かな女性の育成を目指す。

※自己評価アンケートで、表現教育科目の授業で専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を90%にする。

イ 表現教育で培った力を発表する行事を設ける。発表の場所や鑑賞してもらう人などの設定を変え、さまざまな環境で自己表現力と専門性を高める。特に修学旅行先のハワイでは、「海外ライブ」としてステージの発表を披露し、海外で現地の方を含めてたくさんの方の前で自己表現する。また3年次の卒業制作発表(りべらるライブ)では3年間の表現教育集大成を保護者や外部からの観客の前で披露する場を設ける。

※自己評価アンケートで、発表する行事を通して専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を90%にする。

2. 学習環境の整備と自分の目指す進路の実現

◆1年次は習熟度別クラス編成をおこない、効率性の高い授業展開を目指す。また通常授業だけでなく、「早朝テスト」や「放課後補習」、「外部模試対策」、「長期休暇の講座」「外部予備校講師による勉強塾」など様々な学習環境を整備し、生徒に学習する場を与える。そして学習習慣を定着させることで学力向上につなげ、一人一人の進路の実現をする。

ア 家庭学習の習慣が不十分であったり、学校以外に学習する場がない生徒がいる中、「早朝テスト」や「放課後補習」を活用し、勉強が苦手な生徒にも学習する場を与え、学習習慣を身につけさせる。また、勉強が得意な生徒の力を伸ばすために、「外部模試対策」「長期休暇の講座」などの機会を設け、大学進学を目指す生徒のバックアップに力を入れる。

※令和4年度卒業生の進路決定率を90%にする。

イ 「外部予備校講師による勉強塾」では、国公立大学・難関私立大学の進学実績を上げるために放課後7・8・9限目に外部の予備校講師による受験対策講座を実施する。今年度も対象学年を3学年全てに拡大し、早期から大学進学に向けた応用力の育成を図る。

※「勉強塾」参加生徒の希望する進路の実現率を85%にする。

ウ 一人一台のタブレットを持ち、情報化社会に対応するための様々な取り組みやアクティブラーニングなどの授業に対応させていく。一方、教員もタブレットやプロジェクターを利用したICT教育に取り組み、多様化する学習に挑戦する。

※タブレットやプロジェクターを利用したICT教育の達成率を70%にする。

3. 身だしなみ・マナー指導による女子教育

◆生徒のマナー意識を高め、頭髪・服装指導を徹底し、身だしなみを整える。

ア マナー教育として「挨拶・頭髪服装」を大切にし、身だしなみが整い、マナーの良い生徒を育成する。

※自己評価アンケートのマナー意識の達成度を80%にする。

イ 身だしなみ指導として、頭髪・服装指導を徹底する。自分の母校となる学校の制服にプライドを持たせ、身だしなみを整えることにより、より本校の魅力を示す。

※自己評価アンケートの身だしなみ・服装・頭髪指導の達成度を80%にする。

<教職員>

☆特色授業や行事を通して専門性を高める

- ① 「専門的な授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」という項目の達成度は全体平均で100%となり(達成した:29% おおむね達成した71%)、昨年度の86.7%を大幅に上回る評価となった。新型コロナウイルスの感染対策が緩和される時期が増え、通常授業が実施できる場面が増えたことで昨年、一昨年より積極的に取り組めた成果がこの数字につながったと考えられる。
- ② 「表現教育の場や行事において、専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」という項目においては、100%の達成度(達成した:25% おおむね達成した:75%)であった(昨年は88.9%)。
- ①同様に、新型コロナの感染対策が緩和される時期が増えたことで、これまでは中止や制限となっていた行事の多くが実施できたことが大きい。残念ながら高3生の修学旅行は2年連続ハワイではなく、海外ライブの実施は叶わなかったが、体育祭や学園祭、3年次に外部で行う卒業制作発表(リベラルライブ)等は感染防止対策を徹底した上で、実施できたことは非常に良かった。生徒が涙して喜ぶ姿を見ると、3年間取り組んできた表現教育の成果に誇りを感じる、そんな時間を生徒たちが提供してくれたように思える。
- ③ 「クラブ活動において、専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める」も100%の達成度で(達成した:50% おおむね達成した:50%)で昨年度の80%を大きく上回った。②同様にこれまで大きく制限されていたクラブ活動においても、試合や発表の舞台が戻ってきて、それに伴う練習等がしっかりできたことが、昨年度の評価を大きく上回った要因だと考えられる。
- ④ ①～③のような結果に至った一番の要因は、やはり新型コロナウイルスへの感染対策が定着し、同時に緩和される時期が増えたことが大きな背景といえる。また3年間苦しんだ一方で学んだことも多く、より安全にかつ生徒たちの充実感を確保することを目指した教員の努力が評価に値する。それを裏付けるように、アンケートの「指導方法の工夫や改善により、生徒に興味をもたせる」「学校行事における表現教育の成果を発揮させる」の達成度も100%となり(達成した:50% おおむね達成した:50%)、昨年度の89.4%を大きく上回ることができた。

☆学習環境の整備と自分の目指す進路の実現

- ① 昨年度に引き続き「早朝テスト」「長期休暇の講座」「外部模試対策」「外部予備校講師による勉強塾」を実施し、学習環境の充実を継続させてきた。この結果、「個々に応じた学習環境の整備により生徒に学習する場を与えられた」については、90%を達成した(達成した:67% おおむね達成した33%)。昨年度が70%だったことを踏まえると大きく前進したといえる。平成28年度の43%から見ると、この7年間で2倍以上の高い達成度に達した。リベラル高校開設から早い段階で日常的な学習環境を大きく改革することで学習効果の向上を図ることができている。その結果、新型コロナウイルスの感染拡大3年目でも、「授業を大切にさせる」という項目においては90%に達した(達成した:56% おおむね達成した:44% 昨年度は88.9%)を達成することができた。
- ② 一方、「学習習慣を定着させる」についての達成度も90%(達成した56% おおむね達成した44% 昨年度は50%)と大きく増加した。新型コロナウイルスの感染拡大で臨時休校等が続いた2年前と比較すると、今年度は安定して学習が継続できる環境にあったことが大きな要因といえる。特に朝の「早朝テスト」を中心とした学習習慣の定着に注力してきたことが大きな反響となっている。
- ③ 開校時より一人一台のタブレットを持たせ、授業や行事、家庭学習での活用を推進してきた。また教員にも一人一台のタブレットを配布し、プロジェクターを利用した授業の取り組みやタブレットによる連絡事項の管理を継続してきた。さらに学習動画スタディサプリ・スタディイングリッシュも導入して、家庭学習の充実を図ってきた結果、今年度のICT教育の活用の達成度は100%(達成した:40% おおむね達成した:60% 昨年度56%)となった。昨年度の反省をいかし、タブレットを利用した学習のサイクルの定着をより一層浸透させる努力をした結果であったといえる。定期的に外部の教育機関(ベネッセやリクルートなど)に来校を願い、本校のICT促進のサポートを受けたことも大きかった。さらに定期的に教員研修会を開催してきたことも一要因といえる。
- ④ 「生徒に進路目標を設定させる」については90%と昨年度(89%)とほぼ同じ数字となった。また、「生徒の希望する進路を実現させる」は89%で昨年度(78%)を大きく上回った。大学入試3年目の挑戦は過去2年間で培った経験値が確実に大きな土台となりつつあり、一人一人の進路希望に合わせた効果的なサポートが大きな成果を生み出しているといえる。新大学入試への理解と周知、そしてそれに対する情報の共有と対応力の早さが進路実現の結果につながった。一方、今年度の3年生の進路決定率は89%で昨年度の89%と同数となったが、目標値をほぼ達成できた。背景としては浪人が2名、芸能活動を目指すフリーターが2名、進路未定が2名となったためである。一方、勉強塾に参加した生徒の進路実現率は80%(5名の内1名が浪人)であった。開校以来、3年連続で現役で国公立大学に合格者を出し、難関大学をはじめとする私立大学にも多くの合格を出せたことは、現場教員と勉強塾の先生方との大きな成果だったといえる。

☆身だしなみ・マナー指導による女子教育

- ① 昨年に引き続き、マナー教育「挨拶・頭髪服装」を指導方針として取り組んだ。そうした中で、マナー指導の工夫・改善については88%と昨年度(70%)より大きく上昇し久しぶりに目標値を達成できた。定期的な頭髪服装指導などを継続しつつ、繰り返して指導するマナー教育に一定の成果が出たといえる。一方、「生徒のマナー意識を高める」も88%と昨年度(70%)を大きく上回った。社会に出る最後の教育現場という意識で頭髪服装やマナーについて今後もしっかり指導を継続していきたい。
- ② 身だしなみ・頭髪・服装指導を徹底することに関しては、89%と昨年度(70%)と大きく上昇した。堺リベラル高校開設により、頭髪服装で注意する生徒が減少してきていることは素晴らしいことである。①とともに、新しい取り組みによる意識の改善を、次年度以降もしっかり指導を継続していきたい。

<自己評価アンケートの結果と分析>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
1. 特色授業や行事を通して専門性を高める	ア 特色授業の取り組み	・ 「ダンス」「楽器」「演技」「声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現法を学習し、自己表現力、コミュニケーション力を育み、表現力豊かな女性の育成を目指す。	ア自己評価アンケートで、表現教育科目の授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を90%にする。	ア「ダンス」「楽器」「演技」「声優」「イラスト」の身体表現科目を中心に「スピーチ」「ディベート」「プレゼンテーション」などの言語表現法など専門的な授業で生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は全体平均で100% (◎) であった。昨年度から大幅に上昇した原因は、新型コロナウイルス感染拡大への緩和への対応があげられる。
	イ 発表する行事の設定	・ 発表の場所や鑑賞してもらう人などの設定を変え、様々な環境でより自己表現力と専門性を高める。特に修学旅行のハワイでは、「海外ライブ」としてステージの発表を披露し、現地の方含めてたくさんの方の前で自己表現する。 また、3年間の表現教育集大成としての卒業制作発表(リベラルライブ)を成功させる。	イ自己評価アンケートで、発表する行事を通して生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高める達成度を90%にする。	イ発表する行事を通して生徒の専門性・自己表現力・コミュニケーション力を高めるという達成度は100% (◎) でほぼ目標値を達成した。 残念ながら高3の修学旅行こそハワイではなくなったが、体育祭や学園祭、3年次に外部で行う卒業制作発表(リベラルライブ)等は感染防止対策を徹底した上で、成功できたことは非常に良かった。またクラブ活動等においても試合や発表の舞台が戻ってきたことで、練習する機会が増え、しっかり取り組めたことが評価できる。
2. 学習環境の整備と自分の目指す進路の実現	ア 学習環境の整備と進路の実現	・ 家庭学習の習慣が不十分であったり、学校以外に学習する場がない生徒がいる中、「早朝テスト」や「放課後補習」を活用し、勉強が苦手な生徒にも学習する場を与え、学習習慣を身につけさせる。また、勉強が得意な生徒の力を伸ばすために、「外部模試対策」「長期休暇の講座」「外部予備校講師による勉強塾」などの機会を設け、大学進学を目指す生徒のバックアップに力を入れる。	ア令和4年度卒業生の進路決定率を90%にする。	ア「早朝テスト」「長期休暇の講座」「外部模試対策」「外部予備校講師による勉強塾」「習熟度別放課後補習」などを実施して学習環境の整備を充実させた。その結果、「個々に応じた学習環境の整備により生徒に学習する場を与えられた」、「授業を大切にさせる」の2項目がどちらも90%(◎)となった。また、今年度の3年生の進路決定率は89%(○)で目標値をほぼ達成できた。
	イ 勉強塾からの進路実現	・ 「勉強塾」では、国公立大学・難関私立大学の進学実績を上げるために放課後7・8・9限目に外部の予備校講師による受験対策講座を実施する。昨年度に引き続き、対象学年を3学年全てに拡大し、早期から大学進学に向けた応用力の育成を図る。	イ勉強塾に参加した生徒の希望する進路の実現率を85%にする。	イ勉強塾に参加した生徒の進路実現率は80%(▽)であった。1名の浪人生が出たものの、昨年度に引き続き、現役で国公立大学に1名が合格し、難関大学をはじめとする私立大学にも多くの合格を出せたことは、現場教員と勉強塾の先生方との大きな成果だったといえる。
	ウ ICT教育の推進	・ 生徒一人に一台のタブレットを持たせ、情報化社会での様々な取り組みやアクティブラーニングなどの授業に対応させていく。一方、教員もタブレットやプロジェクターを利用したICT教育に取り組み、多様化する学習に挑戦する。	ウタブレットやプロジェクターを利用したICT教育の達成率を70%にする。	ウICT教育の活用の達成度は100%(◎)と目標値を大きく超えて達成できた。 昨年度の反省をいかし、タブレットを利用した学習のサイクルの定着をより一層浸透させる努力が結果に結びついたといえる。外部の教育機関のサポートや研修会の効果もあげられる。

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
3. 身だしなみ・マナー指導による女子教育	ア マナー教育への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> マナー教育として「挨拶・頭髪服装」を大切にし、身だしなみが整い、マナーの良い生徒を育成する。 	ア自己評価アンケートで生徒のマナー意識を高める達成度を80%にする。	ア 生徒のマナー意識を高める達成度が88% (◎) となった。またマナー指導の工夫・改善についても88% (◎) であった。定期的な頭髪服装指導を昨年に引き続き継続しておこなうことができた。またマナーについては一度の指導で終わらず、気になったときに指導を入れていく方法により少しずつ改善されていると言える。
	イ 身だしなみ指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導として、頭髪・服装指導を徹底する。自分の母校となる学校の制服にプライドを持たせ、身だしなみを整えることにより、より本校の魅力を示す。 	イ自己評価アンケートで生徒の身だしなみ・頭髪・服装指導を徹底する達成度を80%にする。	イ 生徒の身だしなみ指導を徹底する達成度が89% (◎) で、目標値を達成することができた。アの内容とも関連するが、堺リベラル高校開設以来、身だしなみを注意される生徒は確実に減少している現状がある。マナー意識と同様に年々身だしなみ意識も高くなっては来ている。更に、自分の学校を大切にして、より自分の母校にプライドを持たせ、身だしなみから整える意識を醸成していく。そして本校の制服の良さや魅力も示していきたい。